

弥富市小中学校適正規模検討委員会 会議録

日 時 平成25年12月18日（水） 午前11時00分

場 所 日の出小学校 会議室

【出席者】吉田 正委員、佐藤 孝委員、佐藤成男委員、松川由香委員、福本吉樹委員、恒川義雄委員、奥山 巧委員、服部 博委員、東嶋とも子委員

【欠席者】服部正美委員

【事務局】下里博昭教育長、服部忠昭教育部長、片山幸毅教育部次長、立松則明課長、柴田寿文課長補佐

○ 議 事

学校教育課長 皆さん、どうも御苦労さまでした。

3小・中学校を御見学いただいて、皆様方の御感想とか御意見を聞かせていただきたいと思いますので、忌憚のない御意見を、よろしく願いいたします。

委員長さんのほうから何かありますか。

委員長 おはようございます。

時間がもうそんなにございませんので、1時間弱のお話になると思いますけど、栄南、それから弥中、日の出と初めて訪問させていただきましたけれども、感想といいますか、栄南は小規模校、施設は古い、展望台が新しいということですけども、教育効果の観点からいうと、人数が少ないですけども非常にいいのではないかなあと、子供さんたちに行き届いているのではないかなという気がいたしました。

今回の日の出の40人近いところは、それに比べると大変かなという気がしましたが、施設の新しきで相殺されるのかなと思ったりもしましたけれども、弥富中学にしても日の出にしても非常に新しい施設でとてもすばらしい。そのギャップが相当あるなということを感じました。以上です。

委 員 最初に栄南小学校を見せていただいて、15人ぐらいのクラスだったと思うんですが、授業としては15人ぐらいですとそれなりにいい、できているなあというふうには感じたんですが、その次に11人ぐらいの授業を見ると、ちょっと寂しいなあという気がしました。

対症的にこちらの日の出を見ると、30人のクラスが何クラスもあるということで、同じ弥富市なのにどうしてこう差ができてしまうのかなと。

例えば、少ない栄南の学年がどこかと定期的に合同で授業を受けるというような企画というか、そういうのがあってもいいかなあと思うんですが、多いところに少ない生徒が行くと、どうしても萎縮するというか、そういうことが起こると、またそれも一つ問題だなと、何かいい方法があればなあと思いました。

委員 感想的には同じような感想を受けたんですけれども、栄南小学校のほうですと、やっぱり小規模で授業をされてみえますので、授業内容といいますか、お子さん方の理解度という分では、マンツーマンという部分ではないんですが、やっぱり大きな規模の学校よりも小規模のほうが十分、そういった意味で利点は生かせるんじゃないかというふうに感じました。

ただ、学年が1クラスだけだと、そういった部分では人との交流というんですか、どう言ったらいいんでしょう、クラスがえとかそういった部分もあって、いろんな方と子供たちの友達を多くというんですか、そういった部分ではクラスがえとか、なかなか人間は好き嫌いと言っちゃあいけないのかもわかりませんが、何か一つ心に残るものがありますと、その子となかなかなじめないというか、打ち解け合えないといいますか、そういった部分のときはどうかなという部分をちょっと感じました。以上でございます。

委員 人数が多い学校、少ない学校、それぞれの学校でそれぞれにいろんな工夫をされているということを感じました。

ちょっと素人なので本当かどうか、うそかもしれませんが、学校の教室の広さというのは多分基準があるんですかね。わからないんですけど、あの学区、1クラスの広さでちょうどいいと感じる人数が、多分先生も子供たちも、今の大体見てきた大きさですよ、気持ちいいのかなあというのは感覚的に思いました。

あと、人数が少ないと余りこれまで意識したことがなかったんですけど、男の子、女の子の割合も大分変わってくるんだなという気はしました。以上です。

委員 私もまず最初の栄南小学校を見せていただいたときに、子供がすごい少なくて、先生との距離がすごく近いなあと思ひまして、先生の授業が間近で見られるというすごい利点があるなと感じることができました。

そして次に、弥富中学校に行ったときには、横に広く感じたんですね。子供同士はすごくくっついているなという印象があったんですが、私どもの学校だと結構縦長に教室に入っても感じるんですけれども、物すごく横幅があるにもかかわらず、先生との授業を受ける目線というのが、みんな黒板に届くような位置づけになっているなと感じまして、やっぱり教室の新しい工夫というんですかね、新しい学校での工夫がされているなというのはとても感じました。以上です。

委員 私はそれぞれ見て行って、弥中を見て思ったことは、弥中が変わり、少し南の方に下がったということで、きょう栄南とか大藤のほうを見ていったので、そちらの小学校からの距離から考えると、もっと向こうにすればよかったよなんて勝手に思っていたんですが、その後学区のことを聞いたときに、イオンタウンのほうにもこの学区があるという学区の線引きが、やはり昔からの線引きのところで学区が分かれているところの形で、今なっているのをちょっと思ったんですが、ただきょうの授業というのはそれぞれやっぱり小規模校は小規模校のよさがあり、大規模校は大規模校の中で、新しい視点、さっきおっしゃったように、この日の出小のやり方とか、弥中のやり方、教室の規模とか形によると思うんですが、それぞれ学校のほうで子供たちのどうすれば一番授業がわ

かりやすいかという視点につくってみえるなというのは、すごくそれぞれの学校の特徴を生かして、授業をしっかりとやっていただいていると思ったんです。

あとは、小規模がどうなのかというお話になったときに、中学生の子とちょっと交流をした中で、やっぱり話を聞いていると、遠いから大変だよねという話をしますと、子供自体は、いや、ここで全然自分は不便を感じていないというふうに、遠い学校の子もやっぱり当たり前のように今の学校に通っているということを言われます。なので、一生懸命教育委員会に頼もうとか、学校のほうが学校の規模や何か十分考えてすごく協力をしていただいていると同時に、今ここの私たちの問題の中で、小規模校をどうするか、大規模校をどうするかという話になったときに、やっぱり今通っている子供たちは地域として今の学校に通っているというのが当たり前になっているので、遠くなったのが、もっとという気持ちがあんまりないみたいを感じるんですね。なので、やはり今の状況の中で、一番いいことを伝えていただいている形で続けていけばいいのかなということ、やっぱり見ていて子供たちの様子で思いました。

委員 国の基準でといいますか、県の基準でといいますか、その適正規模は何クラスぐらいなんだらうと、1クラス何人だという数値が日本ではずっと続いてきておるんですが、このたびは見せていただいて、実感として、果たして適正規模というのは1学年あるいは1つの学校で何人ぐらいがいいんだらうかという、授業と先生と生徒のやりとりの感じで、私は20人ぐらいだらうと思ったわけですが、35人というこれは多いかなという感じを持っております。

その点、適正規模検討委員会に所属しておりながら、栄南小を見せていただきますと、少人数の学級で先生と児童とのやりとりが活発に行えるという、児童はうかうかしておれないということで、何か必ず参加をしなきゃならないという状況に自然になっておると思うんですけれども、比較的小さな声で、小さいというか大きな声を出さなくても会話口調で児童に声が届くというのが十何人とか、20人とかいうことだと思います。

もちろん少人数、十数人、20人ぐらいですと全児童を見渡せるということですね。当然一人一人に先生と生徒・児童とのやりとりの機会もふえるということで、何か少人数もいいんじゃないかと思い始めました。

それから弥富中学ですけれども、中学校というのは教室のサイズが決まっているのでしょうか、狭く感じるんですね、私には。何かいっぱい机と生徒が座っていて、二人座りでしかも2人でくっつけて1つの机のように、何か作業をしますと、狭いなという印象は受けておりますけれども、私自身の傾向といいますか、机一つ一つがいいなあと、くっつけずに独立させて学習できたらいいなと思いますが、その点1年生35人まで、2、3年生は40人、三十七、八人いたと思いますが、ちょっとこれは人数が多いんじゃないかということで、やむを得ないのかなということで、ちょっと教室の苦しさ、閉塞感を感じるような教室のサイズと児童・生徒の数を感しました。

これは県の基準とか、国の基準で教室のサイズが決まっておるならば、これはここでは何ともいかんともしがたいわけですから。

それからどなたかも指摘されましたように、いわゆる小規模校、栄南小と大藤小、小

規模校同士1年に1回か2回行き来して、何か合同の行事を開いたらどうかと。小さな学校の中でやっているよりも、小さい者同士親睦もありますし、何か行事が大きくなるんじゃないか、少し年2倍ぐらいの行事ができるんじゃないかという交流行事ですね、そんなのをちょっと、どなたか言われたかもわかりませんが、思いつきました。

といいますのは、小規模校の小学校から弥中とか大きい中学校へ行きますと、えっという、そこでショックを受けるというか、萎縮する子供も結構いると思うんですけども、その後2年生、3年生になっていくとなれ親しんでくるのかもわかりませんが、そういう大規模校ですか、弥富中学なんかへ行く小規模校からの児童がスムーズに行けるといいなという、そういう気持ちを持っております。以上です。

委員 きょう、3つ見せてもらいました。栄南小さんを見せてもらったんですけども、人数が少ないところ、若干寂しいところもありましたけれども、本当によく行き届いておって、学区の広さから見て、もうあれ以上遠くに通学するというようなことは費用の面でも、安全・安心の面でも、これはもう不可能じゃないかと。

少人数なんだけれども、小学校で少人数なんだけれども、あそこは弥中に来るもので一んとふえますね。今、萎縮されるというようなことがありましたが、子供は物すごく適応力があるので、すぐなれます、3日あったら。中学校で一んとごっちゃまぜになりますので、小学校のとき固定のところがあっても、中学校ですぐなしになります。逆にやっぱり中学校で小規模で1クラスだとかいうふうのほうが、社会性が育たんだとか、いじめがあつて問題だとか、それを防いだほうがいいと考えます。

小学校の小さいところはいいんです、それは、教育環境としては。けども、中学校で小さくなってしまうと、これはもう教育的には非常に悲しいなというふうに思っていますので、適正規模ということから考えると、そっちのほうを僕は問題にしてほしいなというふうに思っているんです。

このままいくと、十四山中が10年後にはもう110人か20人ぐらいで、1クラスになってしまいますね。それを見越して、やっぱり私はきょう日の出小を見せてもらったんですけども、人数がすごく多いですね、三十何人。あれの3分の1は近いところの十四山中に来てくれたらそれも防げるので、それ以上ベストの考えはないなというふうに、自分では思いますけど、いかがでしょうかね。

委員 きょうは本校を見ていただきまして、ありがとうございました。

見ていただいたように、栄南小は本当に広い校区で、今話題も出ていましたけれども、例えばこの時期、今昼間がとても短い時期なんですけれども、前も言いましたが、本当に早く暗くなるので、先生たちは本当に下校時間、出す時間を守りなさいということ徹底しています。今、4時下校が基本なんですけれども、4時下校ということはもう5時に暗いんですね。5時に帰る、遠い子は5時にうちに着く。そうすると、きょうのような雨の日は4時半から暗くなっちゃうんですね、現実には。暗い中を帰っていかなくちゃいけない。

例えば朝も駒野の子は、前に申しましたように6時55分ぐらいには集まっていますので、暗い中できょうは集まって学校へ歩いてきているという。本当にこの時期、校長と

しては登下校が本当に一番心配する時期ということなんです。

今いろいろのお話をいただきましたが、以前申しましたように、どんな規模でも、よさ、それからメリット、デメリットは必ずありますので、やっぱりそれぞれ学校がその学校の規模に応じたことを工夫してやっているということをきょう見ていただけたと思うんですね。

本校でいいますと、小規模校ですので、よさといえばたくさんおっしゃっていただいたように目が届くとか、例えば本校ですと市のバスを借りられますので、簡単に1クラスなので1台で借りて見学に、コンテナふ頭の見学に行ったり、浜乙女さんに行ったりとか、簡単にできちゃうんですね。やはり日の出小さんと3クラスあるので、なかなかそれは実際はできない。そういう小回りはいろいろきくので、そういういい面はたくさんあります。

ただ、逆の面もあります。皆さん心配していただいているように、学校のいろんな行事を考えた場合に、様々な工夫をしながら行っていく必要もありますが、今までの行事を簡単になくすことは本校はしていませんので、工夫をしながら行っていくということで、全てやっております。

この前の学習発表会は、11人は4年生はことしからはもう高学年になるので、11人で頑張ると、11人で無事やりましたし、そういうことは、当然やっぱりステップは踏んでいかなきゃなきゃいけませんし、今その11人の学年については、修学旅行をどうするかと、今も問題がもう6年生にありますので、もうその準備を既に始めています。ということも先を見通して、やっぱりやっていけばやれると思うんですね。

キャンプも本校は2泊3日でやっておりますが、何しろ交通費がすごくかかるものですから、バス代がえらいことなので、もう数年前から4、5年合同で行くと、4年と5年が合同で行くと。人数が2クラスになれば1台でも十分交通費はできますので、行く場所は国立少年自然の家というところへ行きますので、そこは宿泊代はただですので、シーツ代、食事代のみですので、そういう形で経費を抑えてやるということをやっています。

ただ、4、5年が行くということは、同じ場所へ行くのはかわいそうということで、本校の場合は2泊3日という形をとり、遠いところですが、長野県の高遠、桜で有名な、そこにあります長野県と、それから次の年は海ということで、若狭少年自然の家、海の体験という形を工夫してやらせて、そういう工夫を本校の場合はさせていただいていますし、当然日の出小さんもこの規模は規模なりで、中での工夫はたくさんしているということはお聞きしていますので、当然私どもの立場としては、校長としてはその学校の規模に応じたよりベストな学校経営をしていくのが使命でありますので、それは今回見ていただいて、改めて感じていただければありがたいなあというふうに思っております。

それから、先ほど小学校が小規模で中学校へ行くと萎縮するのではないかという話が今出ていましたけれども、自分は教頭からずっとおりますので、もう9年目なんですけど、栄南小学校、例えば、栄南小学校で元気だったけれども、弥富中へ行って登校拒否

になったという子は1名だけです。1名知っていますけれども、人間関係がなかなかうまく行かなくなったという話は聞きましたが、ありました。それ以外ほとんどそういう話は聞いていません。弥富中で栄南小出身の子で学校へちょっと不登校っぽいという子は、栄南小のときから実は不登校っぽいという子ですので、ですから今ここで話題になっておりました小さい小学校から大きいところへ行ったら萎縮するかということは、もちろん個人差はあると思いますが、データの的にもほぼそれはないというふうに思っております。

ただ、やっぱりデメリットの中の一番はクラスがえができないとか、それから先ほど指摘のありました交流が少ないとか、そういう部分も当然ありますので、クラスがえについてはもうどうしようもないです。以前もお話したように、私は校長の立場で、できるだけ担任が2年続きで持たないようにしていきたいな、気分を変えるためには先生を変えるしかないということをお心にかけていますが、必ずできるわけではありませんし、2年後にまたその先生が担任を持つということも当然出てきますので、できるだけですけど、連続してはちょっと避けるような工夫を、例えばしたり、交流については、どうしようもできないものですから、前も申しましたように、栄南保育所からずっと一緒なので、栄南小へ入る前からもう人間関係ができちゃっているのが実はあるものから、何しろそれを打破するためにはということで、どこの学校でもしておりますが、縦割りの活動を活発に行うということで、本校では1年から6年までの縦割りグループがありますので、前もお話しましたように、4月に結団式ということで海南こどもの国まで助け合って歩いていたり、それがスタートでいろいろな活動をし、運動会でも縦割りで3つのブロックに分かれてやったりとか、縦割り活動を重視して、少しでもという形で工夫をさせていただいているというのが実情ということをお紹介させていただきます。

学校教育課長 先ほど、何人の方からかお話が出ておった教室の大きさでございますが、一応教室の大きさについては規定がございますので、その規定の大きさでつくらせていただいて、今現状はやっておるといいうことでございますので、よろしくお願ひします。

委員 規定でも幅があるんだね。

教育部長 教室の面積は、今は、先ほど感じられたのは多分横に広いというのは、昔は多分縦が長かった（4間×5間）と思うんですね。先生との距離が結局ありましたけれども、今は横に広くて、視力の問題があるかわかりませんが、より近いほうにということです。昔はどちらかというと縦長と思う。小中学校の基準は、7m×9mで63㎡かちょっとそのあたりだと思いますが、先生との距離があったと思う。今はどちらかというと横長（8m×8.5m）のほうに教室をつくる傾向です。

それと先ほど日の出もそうですけど、オープンにすると結局廊下も教室の一部に取り込みますので、ああいう形ですと、解放感が少しはふえます。基本的には補助金の普通教室の大きさは決まっております。

委員 35人というのは何かを見越した大きさなんでしょうか。

教育部長 昔から普通教室の大きさについては変わっていないですね。

委員 変わっていないんですか。

教育部長 はい。

委員 要するに、言われるのは面積ですか。

教育部長 はい。面積です。

委員 教室の面積ですね。縦横の。

教育部長 ですから、縦で取るか横で取るかの違いですね。

委員 面積の基準とといいますか、規定がある。

委員 委員長さんのときの55人学級のときもあの中におったんやね。

委員長 今はあんまり覚えていないですけど、窮屈だったかもしれませんね、昔は。

委員 だって、一番後ろまでいましたもん。後ろというか壁にひっついてた。

委員 団塊の世代ですかね。

教育長 そう、みんな同じような世代。

教育部長 それと、少し余談でございますけど、机の大きさが今は新JISといいまして、少し大きい形に順番に移行しなさいという、まだ弥富は旧がほとんどですけど、机自体が大きなものにしていくということがございます。

ただこれから、あくまで仮定でございますけれど、教科書がデジタル関係になってきますと、またこれが変わってくるか、極端なことを言いますと、タブレットを持って授業をやるという形態になる可能性もございます。

先ほど一部見ていただきましたけど、電子黒板とか実物投影機という、昔は先生が半分ぐらい、極端なことを言うと、板書していますよね、それが電子黒板ですとデータが入っていますから板書の時間がなくなりますよね。極端に言いますと、45分が今までは30分ぐらいは先生が書いていましたけど、そういう時間が減りますので、内容的には、そういうデジタル化が進めば、そういう時間は減ると思います。授業の時間数が、中身が濃くなると思っております。

委員 今話題になった子供たちの机ですけども、結局は教科書が今A4サイズになっちゃっているんですね。だったら机も文科省は大きくせよと。前はB5だったんですね。小学校でもう全部今はAサイズ。しかも今は学習内容が変わりまして、前は上下だった、前半と後半と分かれていたのが、今は1冊になっちゃっていて、それでランドセルも大きいし、重くなって、分厚くなるんですね、学材はふえているので、見ていただくと、本当に子供たちは、今、重たいんですよ。

だから、あれが本当にいいのかなというのは、実際見ているとかわいそうになってくるのがあるんですけども、そういう物理的な部分からそういう形に、今いろんな変化が出ているということですね。

本当はロッカーのサイズも大きくしなきゃいけないということに、ランドセルが大きくなれば入るかという話になっていっちゃうんですが、栄南小の場合はたまたま入りますので全然問題ないんですけども、ある小学校ですと、もう今A4サイズの宣伝していますよね、ランドセルの。もうぎちぎちで、入れると傷がついちゃうと保護者から文句がくるというような学校もあります。すぐは変えられんし、なかなかロッカーのサイ

ズというのは大変なんでね。

なかなか、文科省もいろいろ変えるなら、施設のほうから考えてもらおうと一番いいかなというふうに、現場としてはそういうふうに思っています。

委員 栄南小学校さんですと、1人2つ使えますよね、ロッカーもね。

委員 27人のところはちょっと無理ですけども、11人とか、20人ぐらいのところだと40個あるので、だからランドセルと別のものを入れる。本当はいけないんですけど、通学距離が遠いので、余り言えませんが、例えば図工のセットとか、書道の道具とか、そういうものは置いていけというふうに。ロッカーが余分があるので、そこへみんな。だから1人2個で置いて、学校へ置きっ放しでいい子は、習いごととかある子は書道なんか別ですけども、置いていってもいいよという形で工夫してやっています。

委員 うちの学校内でもそうやね。

委員 通学がかわいそうなものですから。そういう工夫をしているということですね。

委員長 この次で最後ということになるんですけど、2月の会議でもう半分ぐらいの委員さん半分以上の委員さんが交代されるということで、私もこの間もちょっとお話をしたんですけど、最終的に答申をするということは難しいんですけども、第1次答申という形で答申を出したほうがいいのかということで異論ないですか。

事務局のほうで、これまでの意見をまとめていただきまして、適正規模というその規模の基準が、クラス数の問題であるのか、クラス中の人数、これはなかなかどうしようもないところもあるんですけど、人数もある程度必要であろうと思うし、中学校ぐらいたとやっぱり1クラスじゃなくて4クラスぐらいが適当だというお話も以前ありました。だから、ここもまた人数がふえてくる、この集計を見ますと、やっぱりずうっと全体の人数は余り大きな変化はないですね、これ。多少は減ってくるんですけども、やっぱりアンバランスができてくるということだと思いますね。アンバランスが広がるということなので、結局そのところを適正にするという、そこに問題があるのは学校区の問題が大きいかかわっているんだろうなと。

その学校区も先回の会議では盆踊りやお祭りですか、そういう地区の行事というか、そういうそういうものがかかわっていて、区長さんとの話がなかなかうまくいかないんだというようなこともあって、子供たちは結構すぐなれるという、さっきのお話を聞いていると、小規模校から大規模校に来ても3日でなれるということなんですけど、私も十四山にずっと住んでいまして、西部と東部がありまして、昔は西部のほうが小さかったんですね、中学校で一緒になって、見知らぬ人がいるなと思うけれども、すぐになれるんですね。同じクラブをやったりすればなれますので、そういう心配は要らないかなということは思いますが、いずれにしても中学校の規模をどうするかということが今後大きな問題になるのかなということは感じました。

あと、栄南と大藤の件については、どちらも、大藤は行っていないんでわからないんですけど、栄南と同じぐらいの規模なんですか、どうなんでしょうか。

委員 今170人くらいです。

教育長 もう少し大きいです。

委員 ちよっと大きいです。うちが120人ですので全部の人数。

教育部長 クラス数は同じでございます。

委員 長 学級数は。

教育部長 各学年クラスはオール1クラスです。

委員 長 2クラスずつあるんですか。

教育 長 オール1です。

教育 長 一緒です。

委員 長 クラスの人数が若干多い。

委員 多いというですね。

委員 長 そういうことになりますと、やはりその、どなたか提案されましたけど、合同で行事をやるというようなことがあっても、教育的にはいいのかなど。それは我々が考える問題じゃないと思うんですけどね。

あと通学路の問題も、本当に冬場は遠いので、ここまでは来たら、例えば、バスを前は利用されているとおっしゃいましたっけ。どうでしたっけ。バスは。

委員 バスは使っていません。全部歩いています。

委員 バスはないです。基本的には公共交通機関がないもんですから。

委員 長 学校を変えるというのはなかなか難しいので、小学校、あのままいくと本当にもっと少なくなるんですかね、栄南に関しては。

教育部長 120人を割るケースが想定されます。

委員 長 120人割っていっちゃうんですね。

やっぱり大藤と栄南ぐらいですか、そこが問題になるのは。十四山のほうはどうなんですか。

教育部長 最も少ないのは、今、栄南、十四山西部小がほぼ同じぐらいで、十四山東部小と大藤小がほぼ同じぐらいです。

委員 長 ああそうですか。やっぱり少ないんですね。

何かこの増設をするようなスペースがあるとか、いろいろお伺いしましたけれども、その学校区の問題、そのあたりがどう解消されていくかというというのは来年ぐらいの課題になるのかなどは思うんですけども、そんな感想を持ちましたけど、また何かございましたら、皆さん方フリーにお話しただける、フリーディスカッションをしましょう。

委員 私は、小学校の小規模をどうのというよりも、どっちかという中学校のほうで、より問題としては大きいんじゃないかと、私は思います。小学校は複式学級になったときに、合併とか、分校とか、栄南小、大藤小ですから、1つになったときには大栄小学校、大藤の大と栄南の栄で、大栄小学校という名前に変えて、そこへ1つにするとか、コミュニティーバスを走らせるとか、複式学級になったときに考え始めればいいんじゃないかとは、私は思っております。

奥山先生が言われたように、中学校のほうで2クラスで、問題児とかそういう、クラスがえとかそういうのをやるよりも、3クラス、あるいは4クラスに調整されたほうが

よかろうかなという、中学校のほうがやっぱり規模に関しては重要なと思っています。

委員 今後ずっと弥中はずうっとふえるのみで、十中はずうっと減るのみでということがわかっておりながら、今平島を見ると、またどんどん家が建っていますね。あの予想よりもっと恐らく子供の数がふえていきますが、あの感じでずうっとふえるだとか、だから早くそういう線引きを、案を出してもらったらいいかなど。

委員長 大規模校になることも問題だという話もありますよね。

委員 大規模校で学力の高いところはまずないですからね。非行も多いし不登校も多いし。

委員長 弥富市として優秀な子供たちを育てていくためには、どうしたらいいかという視点が一番必要かと思うんですけども、人数が多くなってきて目が行き届かなくなると、結構悪さするのは中学生ですもんね。

委員 きょう見てもらったらわかると思いますけど、弥富中学校は、一生懸命やっております。あの規模で、あんな正常なきちっとした授業をやれるのは、もちろん先生もすばらしいと思うんですけども、ほかの同規模校を見にいっても、なかなかないですよ。

教育部次長 本当に今の弥富中学校は、弥北も十四山も全部そうですけれども、全国学力学習状況検査というのがありましたけど、3中学校とも県、全国ともに上です。それから栄南小学校も飛び抜けて上、十東小も飛び抜けて上です。逆に、言えなかったところは低いんです。

要はその学年が人数が少ないもんですから、二、三人勉強を頑張らんと平均点があぐつと下がる。でも、小さいところはいい先生がうまく育てるとぐつと上がるということでもあります。

そういう意味では、ここの日の出も先生方が頑張っておっていただく状況ですので、標準ぐらいです。

弥中は、本当に大健闘の学校の一つだと私は思います。問題も少ない、学力も高いということ。

委員 表彰もんだ、本当に。

教育部次長 ただ、これ以上多くなると、昔の弥富中学校を皆さん御存じかと思いますが、一度悪くなると立て直すのには数年かかりますので、そういう面でも地域のこと、子供たちのことを考えても、大規模校はつukらない方向ではぜひお願いしたいと、我々は思っております。

委員長 そういう意味でも、適正規模ですよ。

その行政の方々とそのあたりをしっかりと詰めていくことが、教育委員会としては大事なのかなというような気がしますがね。

どうしても行政の力が強いかね。

ここは一応諮問機関ですので、純粋な意見を皆さん方から受けて、きちんと諮問ができればいいかなと思います。

委員 市役所からの合併したときの資料で、十四山のほうの住所の名前が変わりましたですね。要するに十四山という文字がないんですね。弥富市どこどこ。みんな弥富市なん

ですね。十四山という、ほかから見ると十四山ってどこと、こうなるんです。地名上にはないですね。十四山という文字に、言葉に愛着のある人にはちょっとあれかなと思うんですけども、ない。弥富市ばかりになっておる。で、十四山がない。あるところは施設にあるんですね。十四山保育所、十四山西部小学校、十四山東部小学校、十四山中学校とか、十四山スポーツセンターとか、施設の名前にあるんです。

ある人の集まりで、私は十四山から来ましたと。十四山ってどこという、十四山という文字を消せば十四山ってどこというふうになるわけですね。我々が知っている人は、わかる者は十四山が、ああ、あの辺の地区だなあとこうなるわけですが、見るとないですね、十四山という文字が。住所とかそういうところに表示がない。でも、繰り返しますが施設にある。

結局言いたいところは、弥富市中部中学校、もう十四山という文字でなく、中部中学校。それから弥富市立西部小学校、東部小学校。合併して線引きをされたときに、生徒は弥富市立中部中学校へ行くんだというぐあいに、新しい中学校というイメージを持つと。移されたんじゃないなくて、持つという意味で学校の名前をある機会を得て変えることは大切かなということはおもっております。

委員長 今の御意見は、校名を変える。校名を変えることによって、意識を変える。今までの住民の意識も変える。

委員 ここへ移されたんじゃないなくて、新しい新名称の学校へ行くんだという、そういうふうが、ある何年先かわかりませんが、そういうチャンスがあったときにはそれはいい考えかなと私は思っております。

委員長 あとは、日の出は平島の子も来るんですか。

教育部長 全域、日の出は平島と車新田ですね。行政区としては。

委員長 その子たちを十四山にという、今十四山中学ですよ。もし適正規模でその線引きをしてやるといっても、非常に反対が多いんでしょうかね。もう校舎のきれいさといういか、施設のかんりのギャップがありますよね。そこの解消を8割方はしないと、何かそういうインセンティブがないと来ないんでしょうね、恐らく。来たいとは思わなかなという気がするんですけどね。校名を変えると同時に、そういう施設面での改善を非常に大事だと。

前いた大学のときなんかは、洋式トイレがない大学で、刈谷にある大学ですけど、学生は来ないよと。もう現実的に私はバレーボールを教えているんですけど、全国的に有名な選手だった子が見に来たんですよ。親が見に来て、こんな汚いトイレのところへ娘はやれないと言われて、中京大学へ行っちゃいましたけど、もうまさしくそういうところから変えないと、子供たちは魅力を感じないと。子供というより親ですよ。そういうところをお考えいただけるといいかなということをおもうんですけど。

時間がそろそろ押し迫っていますけれども、時間を、お渡ししましょうか。

学校教育課長 そうしましたら、今、先ほど委員長さんが言われましたように、一応次回のときに皆様方の今までの意見をひとまずまとめて、御提示させていただいて、それを皆様に見ていただいて、その内容でいいんじゃないかというようなお話であれば、また追加した

ほうがいいんじゃないかというお話があれば、そのときに追加なりして、その内容を次年度の委員さんに、ことしの委員さん方の考え方ですよということで送るということによろしいでしょうかね。そういう格好で。

一応今の時点で、もう一回2月を予定しておるんですが、2月の19日の水曜日午前10時を一応予定させていただきたいなと思っておりますが。

委員 済みません。そのときは栄南小PTAが入っているの、大事な役員会なので。
学校教育課長 時間は何時から。

委員 午前中です。午後が市Pが入っているの、午前午後と厳しいんですけど。

委員長 私はいつでもいいというわけではないんですけど。

教育長 翌日の木曜日20日はどうですか。

委員長 私は大丈夫です。

委員長 もう授業はないんですね。

学校教育課長 20日の木曜日の10時ということでよろしいでございますか。

じゃあ、2月20日の木曜日の10時ということで、また案内のほうは送らせていただきますが、よろしく願いいたします。

教育長 まとめたものも一緒に送ったほうがいいね。

学校教育課長 済みません、前もって見ていただくように、案内と一緒にまとめたものも送るようにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

これで、適正規模検討委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。